

光葉同窓会メールマガジン

<2026年7月号>

229号 2026.07.01 配信

大学では4月から総合情報学部がスタートし、様々な取り組みが始まりました。同窓会では全国支部長会、総会、幹事会を通じて、会員の皆様からたくさんのパワーをいただきました。全国の各支部では総会が開催され始め、同窓の絆を深めていることと思います。



さて、夏至から11日目の7月2日頃の半夏生に、西日本では蛸を食べる風習があるとか。暑さに向かうこの時期に、疲労回復の一助としてタウリン豊富な蛸料理はいかがでしょう。

(常任委員 大橋きょう子)

■同窓会だより

◇2026年度幹事会を開催

6月20日(土)、本学学園本部館大会議室に坂東眞理子総長にご出席いただき、新幹事7名を含む101名が集いました。顧問の金尾朗学長からはメッセージビデオが寄せられ、その後2026年度活動についての報告、更に新幹事の紹介では、これからを担う頼もしい一言挨拶もいただきました。学年会・クラス会開催の工夫、会報の感想などをテーブルごとで話し合いました。長年クラス会を続けている秘訣やクラス会で行いたい企画、これからのクラス会のあり方など、話し合いで出た内容を代表5名が発表しました。坂東先生のご挨拶の後、先生のご著書をめぐるじゃんけん大会では大歓声が沸き起こりました。「光葉によせて」を声高らかに斉唱し、来年の再会を約束して、閉会いたしました。



グループごとに真剣な話し合い(左)、盛り上がったじゃんけん大会(中)、新幹事とともに(右)

◇ワーキングネットワークイベントのご案内

フェムケア講座『今日がいちばん若い日を作る』



■開催日時 2026年7月11日(土) 13:00~15:00 (受付12:30)

■開催場所 学園本部館 3階 大会議室

■参加費 無料

お申し込みは[こちら](#)から

「女性のからだ、自分のからだ」をもっと理解するためのセミナーです。「フェムケア」についての知識や悩み、美子宮を健康に維持していく秘訣を「美子宮フェムケアインストラクター・ベリーダンス講師」から学びます。セミナーの後半では、・・・を鍛える運動、ベリーダンスのミニレッスンも体験できます。皆様ぜひお誘いあわせの上、ご参加ください。

(*ミニレッスン体験のために、ご自身の腰に巻く大きめのスカーフをご持参ください)

□お問合せ先

昭和女子大学 光葉同窓会 dousoukai@swu.ac.jp

□講師紹介 **mimi**



Femimine(フェミニン)主宰 ベリーダンス講師、美子宮エクササイズ、フェムケア、美子宮ケア講師、骨盤底筋群調整インストラクター、呼吸法インストラクター、都内フィットネス、カルチャー、生涯学習センターなどのクラス講師。

■広げよう光の葉



山木 詩織 (旧姓 安藤) さん

1994年 短期大学部英語英文学科卒

「夢を形に」

私は子供の頃から漠然と「いつか海外に住み、国境を越えて仕事をしたい」という夢を抱いていました。その憧れが確かな決意へと変わったのは、学生時代のことです。英語英文学科に在籍中、ボストン校で学ぶ機会に恵まれました。「このチャンスを絶対に無駄にしない」と心に誓い、少しでも多くのことを吸収すべく、何事にも恐れず挑戦を続けた日々は、今でも私の原点として深く心に刻まれています。



短期大学部を卒業後も「再びアメリカで生活し、挑戦を続けたい」という想いは消えませんでした。その目標に向けて戦略的に動き、アメリカに本社を置く企業へ就職。そして念願が叶い、現在はアメリカの現地法人にて、乳製品原料を日本へ輸出する営業およびロジスティクスの責任者として、充実した日々を送っています。

私が扱うのは「乳製品」という自然の恵みです。そのため、主な取引先は酪農が盛んな、いわゆる大自然に囲まれた田舎町に点在しています。出張の際は、最寄りの地方空港からさらに車を3~4時間走らせることも日常茶飯事です。直行便がない街への移動も多く、自宅を出発してから目的地のホテルに到着するまでに10時間以上を要することもあります。体力的にはタフさが求められる仕事ですが、これこそがこの仕事の醍醐味でもあります。普通の観光旅行では決して訪れることのない美しい街を巡り、現地の人々と深く関わる中で、普通では味わえない貴重な経験を重ねることができていると感じています。

日本ではよく「アメリカでは～」と一括りに語られがちですが、実際に暮らしてみると、この国の多様性と広大さには日々驚かされます。国内だけで3時間の時差があり、東海岸と西海岸といった大きな括りだけでなく、州が変われば法律も、景色も、食文化もガラリと変化します。さらに、現地の人々が話す英語のアクセントも地域ごとに全く異なります。気づけば在米生活も20年を超えましたが、今なお毎日のように新しい単語に出会い、未知の文化に触れる瞬間があります。この「世界は広く、まだまだ知らないことに溢れている」という実感こそが、私の仕事や人生に対する原動力です。

これまでは自らの夢を追いかけ、無我夢中でキャリアを切り拓いてきましたが、これからは次のステージを見据えています。今後は後輩の育成にも力を注ぎ、私がこれまでアメリカの現場で培ってきた経験やロジスティクスの知見を、下の世代へと惜しみなく伝えていきたいと考えています。

かつて母校で学び、未知の世界へ一歩を踏み出したあの頃の情熱は、今も私の中に息づいています。在米20年という節目を迎えたこれからも、初心を忘れることなく、この広大な大地で学び続け、自らの可能性を広げる挑戦を止めずに歩んでいきたいと思っています。【End】